

兵庫県保険医協会 尼崎支部第 53 回総会・市民公開寄席特別企画

落語&トークの夕べ

仏教・医療から考える “生きづらさ”の支えかた

参加無料

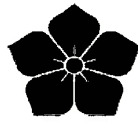
日時 2024 年 7 月 27 日 (土) 16:00 ~ 18:00 (15:30 開場)

会場 尼崎商工会議所 7 階 (尼崎市昭和通 3 丁目 96 阪神尼崎駅徒歩 3 分)

TEL : 06-6411-2251

出演

つゆ まるこ
露の団姫 さん



落語家・天台宗「道心寺」住職。2005 年露の団四郎に入門。主に古典落語・自作の仏教落語に取り組んでいる。2021 年尼崎市に「道心寺」を開山。年間 250 席以上の高座と仏教の PR を両立し全国を奔走。好きな言葉は「一隅を照らす」(伝教大師・最澄上人)



おかもと しんご
岡本 真吾 先生

精神科医。むこのそう心の診療所(南武庫之荘1丁目)院長。金沢大学医学部卒。西淀病院、吉田病院、奈良市保健所嘱託医を経て、ありまこうげん診療所院長。これまで官民合わせて 10 事業所を超える産業医経験やメンタルヘルス顧問医実績あり。2024 年 2 月むこのそう心の診療所開院

1998 年から 3 万人を連続して超過してきた年間自殺者数が、2020 年から 3 万人を下回り減少傾向でしたが、再びコロナ禍では増加に転じ、現在でも年間 2 万人を超過しています。今回は、僧侶として悩みを抱える方の相談活動や、自殺防止の発信をされている落語家の露の団姫さんと、精神科医としてメンタルヘルス向上を目指した幅広い活動を活かして診療されている岡本真吾先生に講演をいただきます。また、お 2 人の対談や団姫さんの落語もお楽しみいただきながら、“生きづらさ”の支え方について考えたいと思います。ぜひご参加ください。

(兵庫県保険医協会尼崎支部長 綿谷 茂樹)

お問い合わせは、TEL : 078-393-1805 兵庫県保険医協会 尼崎支部担当事務局沖野・石本まで
【尼崎支部第 53 回総会 7/27】 FAX : 078-393-1802 (切り離さずご返信ください)

総会議事 (15:30 ~ 15:55) ☐ ご出席 ☐ ご欠席 (総会の一切を議長に委任します)

市民公開企画 落語&トーク (16:00 ~ 18:00) ☐ ご出席 () 人

懇親会 (18:15 ~) ☐ ご出席 ※会場：尼崎市中小企業センター 1 階レストラン 参加費無料

お名前	医療機関名
TEL	FAX

兵庫県保険医協会 尼崎支部ニュース

442 号
2024 年 7 月 15 日付

〒650-0024 神戸市中央区海岸通 1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル 5 階 兵庫県保険医協会 尼崎支部
TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

ー第 56 回総会 尼崎支部 山内道士先生からの発言ー

協会が 6 月 16 日に開催した第 56 回総会で、尼崎支部から山内道士評議員が発言した。発言の要旨を掲載する。

「監視社会」進める国止めよう

【発 言】

山内メンタルクリニックの山内です。私は政府が進める医療 DX は手段を目的にみせていることが問題だと考えます。本来は手段にすぎない利便性を、国はマスコミと組んで良いことであると強調し、目的は「情報集め」であることを隠しています。役人は「医学の進歩のため、国民のためにデータを集める」と言ったと聞きます。国が「データを集める」、まさしくそれは「監視社会」なのに、良いことのように進める、国は詐欺師です。信用できません。



山内道士評議員

オンライン資格確認システムが医療機関に義務付けられ、12 月に保険証が廃止されようとしています。政府の医療 DX 推進本部が取りまとめた「医療 DX の推進に関する工程表」では、電子処方せんの導入や電子カルテ情報の共有がスタートすることが示され、それを役人は「既定路線」と強調したと聞きます。電子カルテの情報が共有されるということは、個人情報が増える危険が増えるということです。私達精神科医は、ここで何を話してもいい、他には漏れないという信頼のもとで患者さんは話をしてくれます。その信頼関係が成立しなくなる大変危険なことが進んでいます。

そして、今回の診療報酬改定で、精神科領域でも、監視社会を進めるかのような内容が盛り込まれていることに大変強い危惧を感じます。点数と関係ない診療録記載とレセプト記載が義務付けられました。これは精神科では今だかつてない義務付けです。それは①通院精神療法を算定した場合、「10 分単位」での時間の診療録及びレセプトへの記載、② 2 種類以上の抗うつ薬・抗精神病薬を投与した場合の薬の種類数・必要性・説明等についての診療録及びレセプトへの記載です。

①も②も共に、点数と関係がない記載義務付けです。
①では、点数としては 30 分までは変わらないのに、5 分超、10 分以上、20 分以上、30 分以上、60 分以上と記載することとされました。ある精神科医が厚労省に質問しました。点数が同じだから 10 分毎に書く必要はないではないか、すると厚労省は「点数を決めるのは保険局で、(2 面へつづく)

(1 面からのつづき)

監査は厚生局。実行しなかったら厚生局が監査に入り罰則を受ける可能性がある」などと言ったと聞きます。

②については、単剤がいいエビデンスはないと薬理の専門の先生から聞きました。国は医師がいうエビデンスなどには関心がないです。単剤が標準治療であるという前提で、2 剤を使えばその副作用を患者に説明し、説明したことを逐一診療録とレセプトに記載しろというのです。

①も②も問題は 国に情報を提出しなさいという義務です。国はマスコミを利用します。精神科医は精神療法に時間をかけない、多剤で薬漬けだとマスコミは言いやすい。マスコミと組む国のやり方は、保険証廃止の進め方と似ています。国の目的は、2 年後、通院精神療法をさらに減点すること、加えて 2 剤以上使用すると減点とすること、今回の改定はそのための情報集めであることは明かです。国は強権を使えば言うことを聞くと、医師の集まりを甘く見ていると思えます。開業精神科医からは患者のために日々やっているのに「収入が減る」「事務作業が増える」「数年で閉院か」「6 月から毎日が憂鬱」等、悲痛な声が各地であがっており、大変深刻な状況です。

これに対して、国がするように、マスコミを味方にしても、国が進める医療 D X、保険証廃止、診療報酬の改悪について、断固反対の動きを示すこと、国の思いあがった強権を食い止める動きを示すこと、皆さま団結してどうかよろしくお願いします。

ー第 598 回幹事会だよりー

6 月 20 日 (木) 於：尼崎市医師会館会議室

○ 尼崎支部の会員数

6/1 現在 医科 372 人、歯科 170 人

○ 医療をめぐる情勢と運動対策

今後の支部企画について 7 月の支部総会市民公開寄席特別企画、9 月に岸本裕充兵庫医科大学歯科口腔外科の主任教授を講師に、医科歯科連携企画として「医科歯科連携の充実の意義～薬剤関連顎骨壊死を例に～」をテーマに開催すること、8 月幹事会は 600 回を記念して、1 年以内の新規入会者や新規開業した方々を招いて支部幹事のメンバーから保険請求のアドバイスをを行うなど交流会を兼ねて実施することについて討議した。医療と福祉を考える会の案内を関係団体へ送付した際に同封した「健康保険証存続を求める」署名が 17 施設から 169 筆集まった。

○ 7 月日程 7 月 27 日 (土) 15 : 00 ～ 尼崎商工会議所 702 会議室

お問い合わせは TEL 078-393-1805 沖野・林・石本まで

＜ 医科歯科連携企画のご案内 ＞

医科歯科連携の充実の意義～薬剤関連顎骨壊死を例に～

日時：9 月 28 日 (土) 15 時 30 分 ～ 17 時 会場：尼崎商工会議所 702 会議室

講師：兵庫医科大学病院歯科口腔外科診療部長 主任教授 岸本 裕充 先生

参加費無料

第 105 回・医療と福祉を考える会

知っているようで知らない 介護ベッドの使い方を学ぶ



マルチポジションベッド (左写真左側) ・フロアーベッド (左写真右側) や、スペースワンダー (右写真) の実演の様子

尼崎支部は 6 月 27 日、第 105 回医療と福祉を考える会を、医療と介護の勉強会 i-kai と共同開催した。医療・介護施設のアマルネス・ガーデン (尼崎市西長洲町) を会場にお借りして「医療・看護・介護にかかわるすべての人に知ってもらいたい、知っているようで知らない 介護ベッドの選び方と使い方」をテーマに、会員、医療機関・介護施設職員ら 43 人が参加した。アマルネス・ガーデンの機能訓練指導員の瀬部将太氏から最新のリハビリ器具「スペースワンダー」と「ウォーキングスペースワンダー」について、フランスベッド㈱の濱野小穂氏から「マルチポジションベッド」と「フロアーベッド」について下記の解説の後、参加者らの実演も行った。

＜スペースワンダー＞

転倒のリスクがなく立位でも安全で、いつもより大きな歩幅や可動域での運動ができる。立位で実際に困った動作を行うことができ、立位での姿勢改善ができる。下肢筋力やバランス力に課題がある方に向いている。

＜ウォーキングスペースワンダー＞

転倒のリスクなく歩行訓練ができ、歩行に対する恐怖心を軽減できるため、必要な筋力に適切に刺激を与えられ、歩行時の姿勢改善ができる。一人で歩行が難しい方に向いている。

＜フロアーベッド＞

高さを 11cm ～ 61cm まで設定ができ、布団感覚でもご使用できるベッド。環境の変化に敏感な認知症の方でも使用しやすい仕様。

＜マルチポジションベッド＞

従来のベッドの機能に加えて「座る」「立つ」ことに関して機能を進化させたベッド。自身での立ち上がりなど自立支援、介助者の負担軽減のどちらも兼ね備えた仕様。座る姿勢に関しては背もたれがありつつ床に足をつけることができるため、リハビリや誤飲の防止に役立つ。

参加者からは「スペースワンダーのリハビリ内容について医師との連携の範囲はどこまであるのか」など質問が出され、介護ベッドの仕様について「150kg 体重の患者様にも対応できるのが嬉しい」、「フロアーベッドは超低床で転落のリスクがなく特養にも導入したい」、「ベッドがこんなに多様化されているとは知らなかった」、「かゆい所に手が届く研修会ありがとうございました」などの声が寄せられた。参加者からの感想は次号に掲載予定。